

— 祖父母からの贈り物 —
「食べて幸せと思える」幸せは
三田の「採れたて」があったから

実家を離れて暮らしてからは、実家で食べていた白米が冷めても美味しかったことに気付きました。思い返せば、幼い頃、祖父母が三田で農業をしていて、いつも帰りに採れたてを手渡してくれたこと、自分の好きなことに、不思議と収穫したよきに特別感がありました。祖





三輪地区
古久保 希 さん

母の手作りジャムも、味は思い出せませんが、大好きだったという気持ちだけは今も鮮明にのみがえります。美味しい食べ物をお口にできることは幸せですが、私にとって「食べて幸せと感ずること」が幸せです。食事はお腹を満たすだけでなく、幸せを感じる時間でもあります。その時間が毎日3回もある。こう感じられるのは、三田に住んでいて、農を通じた「恵み」が日常にあったからだと思います。毎日の幸せは祖父

One Day 農 Trip
1日農体験

薪割りからの「かまど炊きごはん」体験！

薪割りや野菜収穫、かまどでの炊飯を体験！みんなで作業し、みんなで食べよう！
1月31日(日) 10時～14時 / 小柿 ※雨天決行 / 現地集合・解散
申し込み方法や詳細は市ホームページへ▲

かまどで炊いたご飯は香りだけで食欲が増します！直火でおこげも！
ご飯の美味しさを再発見！
農事組合法人 小柿営農 代表理事 小谷 良徳 さん

— 学生×社会人 —
新しいつながりが三田を変える
こみんか学生拠点未来会議



未来会議を運営する
町上 裕城 さん
関西学院大学3年生

こみんか学生拠点とは？
学生を学生や社会人となげ、想いをかたちにできる居場所づくりを支援する団体です。「こみんか学生拠点未来会議」では、三田をもっと面白くしたい学生と社会人が古民家に集い、新しいつながりから何ができるか、まちづくりについて関わるか話し合います。
未来会議にこめた思い
昨年の開催で、学生と社会人がつながることで活動の幅が広がることを実感できました。さまざまな経験

や視点を持つ社会人との出会いは、三田をより面白いまちにしたいという学生の気持ちを実現へと後押ししてくれました。学生が三田の運営に携わったこともここでの縁がきっかけです。
今回は、コロナ禍でイベントや交流の機会が少ない中、開催できたことに大きな意味があると思います。学生と社会人との新しいまちづくりの歩みを止めることなく、古民家を拠点に新しい企画や活動が生まれることを期待しています。



学生が頼るまちの先輩
松島 寛之 さん
(ヘアサロン経営者)

三田が好きという想いは一緒
学生との交流はとてもいい刺激になる。遠い存在のように思っていたが、三田を盛り上げたい、好きになってほしいという想いは一緒だった。まちについて語り合うことで、仲間になり、お互いの気持ちに寄り添えるようになった。ぜひ、皆さんも学生と関わって、共有できる何かを見つけてほしい。

— 生きがいの出会いは突然に —
僕の新しい扉を開いてくれた
日本ミツバチ

自宅にミツバチが住み着いて以来、ミツバチのとりこに。自宅の庭で作るブルーベリーもミツバチのおかげで毎年豊作！！今年はそのブルーベリーのほとんどを猿に食べられてしまったと明るく笑い飛ばす、自然を愛する元気シニア。



摂丹日本ミツバチの
会 事務局長
笹原 正春 さん

私は趣味で日本ミツバチの養蜂を長年行っています。サラリーマン時代は特に趣味もなく、定年後の趣味を探す毎日。ある日、自宅にミツバチが巣を作り、取り除いたのにまた同じ場所に巣を作ったので、余程この土地が好きなのだろうと養蜂を始めてみました。出かけてはせっせと蜜を採取し、律儀に帰って来る姿がサラリーマンのようで、愛おしく、また頑張ろうという気力を与えてくれました。

晴らしい恩恵を与えてくれるだけでなく、多くの植物がミツバチの受粉で実を付けます。もしミツバチがいなくなれば人の食べ物もなくなり、多くの動物の餌にも影響が出てきます。蜂が単にできた三田での養蜂も年々難しくなってきました。持論になりますが、蜂に優しい街は人にも優しい街だと思えます。これからは、養蜂仲間と、生きがいの養蜂を通じて三田の自然を守り、活動を続けたいです。

日本ミツバチや活動をもっと知りたいあなたへ！



いきがい
応援プラザ▶
シニアの生きがいに
つながる情報を発信



▶ 撮丹日本ミツバチの会



とっておきの1枚をシェアしよう！



「さんだっ子スマイル」への掲載応募は、右記二次元コードの申し込みフォームから▶

